

アライグマの被害対策

特徴

するどい爪や歯を持ち、個体によっては気性が荒く、引っかいたり噛みついたりすることもあります。夜行性で、昼間は樹洞や巣穴、および家屋の屋根裏、作業小屋、廃屋などの中で休息しています。木登りや泳ぎが得意で水辺（河川やため池、湖沼などの周辺）を好み、用排水路や暗渠を移動経路として利用しています。行動圏は餌の分布などの季節的な要因によって変動するので、年間を通して同じ場所には留まりません。



(写真: 埼玉県農林総合研究センター古谷氏提供)

生息

平地から山地まで幅広く生息することができ、中でも水辺環境を好みます。適応能力も高く、民家の屋根裏や神社などをすみかにすることがあります。

食性

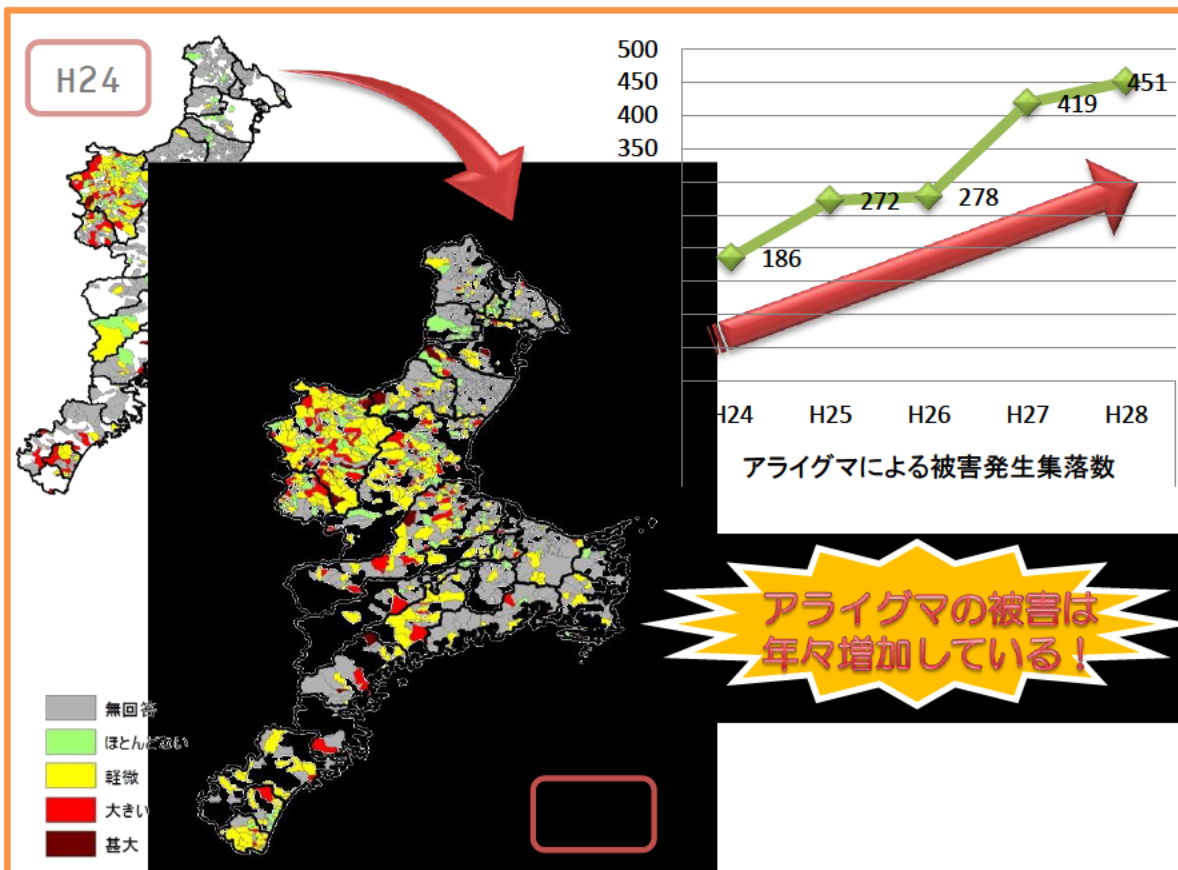
雑食性で、木の実や農作物、カエルや魚、昆虫など何でも食べます。

繁殖

一夫多妻制でメスは1歳、オスは2歳で繁殖可能となります。年1回、3～6頭（平均4頭）の子どもを夏から秋にかけて産みます。

分布

三重県では近年、ほとんどの地域で分布が確認され、被害が発生しています。中でも伊賀地域、紀南地域の被害が多い傾向にあります。平成24年の被害発生集落は186集落でしたが、平成28年には約2.4倍の451集落となり、分布が拡大傾向にあります。



被害の特徴

アライグマは収穫期の田畑や果樹園などに侵入し、農作物を食べます。被害が多い農作物はスイカ、ブドウ、イチゴ、トウモロコシなどです。長い5本指を持つのでとても器用で農作物に穴をあけ、前足で中身をくり抜いたり、きれいに皮を剥いて食べます。そして被害は農作物だけではなく、母親は屋根裏などに侵入し、出産や子育てをすることがあるので、柱や壁を引っかいて傷つけたり、家を糞尿で汚し生ゴミをあさるなどの生活環境被害も起こります。



(写真: 埼玉県農林総合研究センター古谷氏提供)

捕獲手法

外来動物で繁殖能力が高いアライグマに対しては、被害を防ぐだけでなく**集団全体を捕獲**しないと個体数を減少させることは出来ません。

アライグマは足の指が長く器用に物を掴むことができるため、高いところへ登ることも得意です。このためワイヤーメッシュなどの金網柵ではなく、アライグマの体高に合わせた**15cm間隔の3段構造の電気柵**で被害農地を囲い、その周辺で捕獲すると効率的に捕獲できます。

箱わな

箱わなは現在最も多用されているアライグマの捕獲器具です。アライグマ捕獲用の箱わなは、中型哺乳類用の金網製のものが一般的で、わなの大きさは高さ30cm 幅27cm 奥行き80cm 程度のものがよく用いられています。

餌

アライグマは**甘みのある餌**に誘引されやすい傾向にあります。現在多用されているのは甘みのあるコーン菓子や揚げパン、果物などですが、これらの餌はアリなどの昆虫やネズミ類などの小動物による持ち去りが生じやすいので注意が必要です。魚や肉などはネコやタヌキなどの誤捕獲が起こりやすいので避けます。周辺で生産している農作物を餌に使うことは被害を誘発しかねないので避ける方が良いでしょう。わなの入り口付近にも餌を撒いておくことで、わなに侵入しやすくすることも有効です。

設置場所

わなの設置場所は食痕や足跡などの痕跡があり、できるだけ直射日光の当たらない平らな以下のような場所が良いでしょう。

- ① アライグマが集まっている場所
- ② 河川、用排水路などの水辺の近く
- ③ 水辺から農地への移動経路沿い
- ④ 農地や作業小屋、畜舎などの外縁

正しく囲い、その周辺で捕獲する



電気柵設置状況



小型箱罠設置状況

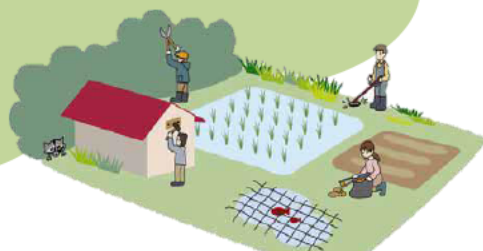


捕獲されたアライグマとタヌキ

被害を防ぐ環境管理の6つのポイントと防止柵

アライグマは行動圏が広く複数個体で行動し、環境要因により移動し、樹上での活動も得意なので農地等への侵入を防止することが困難な動物です。アライグマが地域に定着することを未然に防ぐには、廃棄した作物や収穫しない作物を放置しないようにし、意図しない餌付けに十分注意することです。また、アライグマは水辺（河川や水路、側溝等）や藪、森林を主な移動経路としているので、アライグマの侵入防止にはそうした場所の周辺での対策が重要となります。

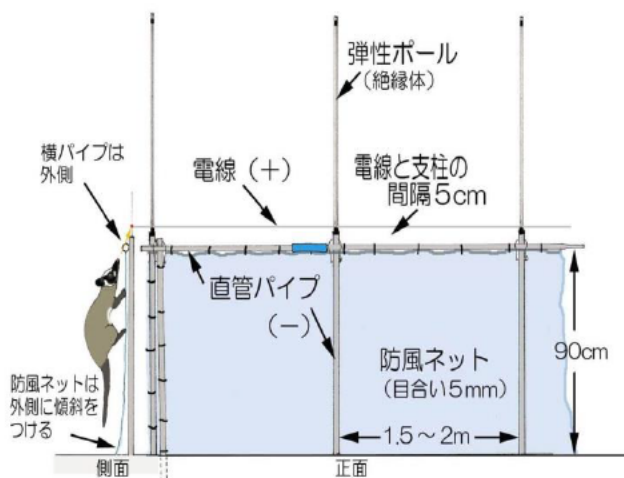
- ポイント① 農地や人家の周辺に廃棄作物や家庭ごみを放置しない
- ポイント② ペットの餌の食べ残し、お墓のお供え物などを野外に放置しない
- ポイント③ 池などで魚などを飼っている場合には金網で池を覆う
- ポイント④ 家屋への侵入経路となるような木の枝などは切る
- ポイント⑤ 家屋への入り口となるような壁の穴などは塞いでおく
- ポイント⑥ 絶対に餌を与えない



イラスト：野生鳥獣被害防止マニュアル～特定外来生物編～農水省

ハクビシン、アライグマ被害防止柵 埼玉方式 はくらく

白落くん

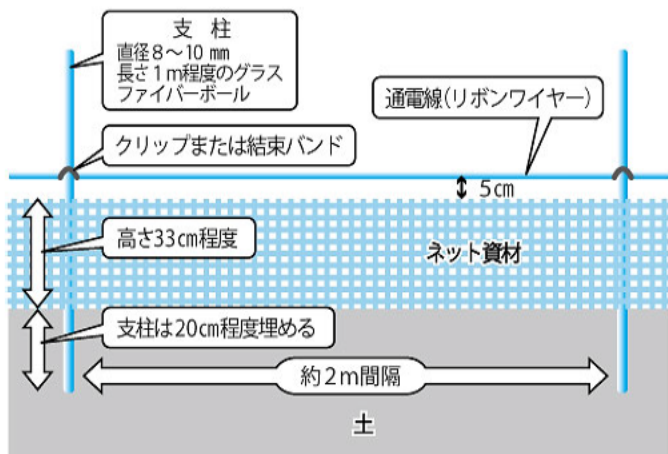


【材料】

- 直管パイプ (支柱)
- フックバンド (支柱組立止め具)
- 弾性ポール (電柵絶縁が1'、防鳥ネット網止)
- 防風ネット (侵入防止ネット)
- 結束バンド (ネット止)
- ピニールテープ (弾性ポール・電柵(導線)固定)
- 電柵パワーエト (電気柵機)
- パイプカッター (パイプ切断)

中型動物の農作物被害防止柵

らくらく 楽落くん



【材料】

- トリカルネット (MS-2黒) 102m
- グラスファイバーポール (直径8~10mm:角部3本・入口2本) 60本
- 結束バンド (150mm) 200本
- リボンワイヤー (約1cm幅) 102m
- 電気柵本体 (出力周期が1.0~1.3秒のものが理想) 1台

アライグマと似た中型動物の見分け方

アライグマ

食肉目アライグマ科

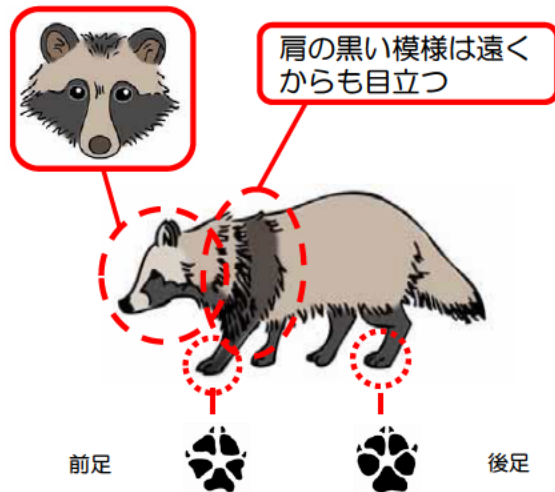


特徴的な尾の縞模様は他の動物と見分けるポイントになります。顔は目の周りが黒く、白い眉があるように見えます。四肢とも長い5本の指があり器用に物をつかむことができ、足跡全体の形は人の手形に似ています。

頭胴長：42～60cm 尾長：25～30cm
体重：4～10kg

タヌキ

食肉目イヌ科

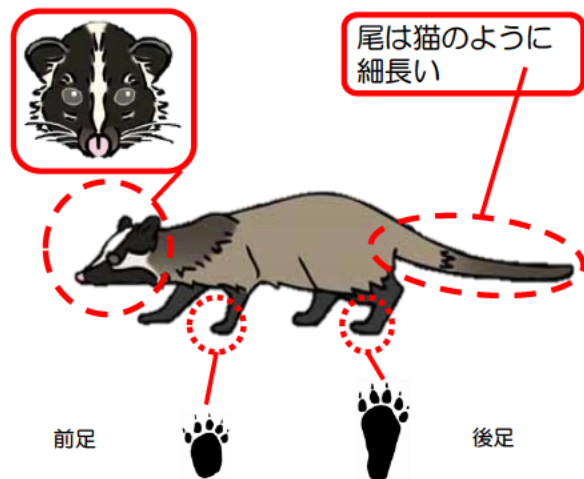


顔は目の周りは黒く、アライグマに間違われやすいですが体毛は全体的に茶色が強く、尻尾は短く縞模様がなく四肢は黒色です。

頭胴長：50～60cm 尾長：13～19cm
体重：4～8kg

ハクビシン

食肉目ジャコウネコ科

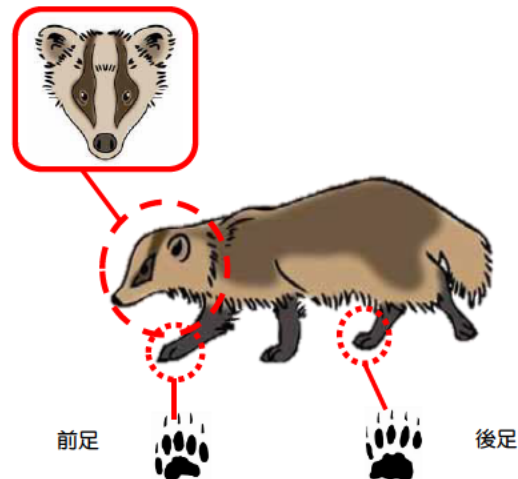


アライグマに比べ体は小さく、鼻筋に太く入った白い線が特徴です。体全体と尾は細長く、尾に縞模様はありません。木登りが得意で雨樋など爪が掛からない構造物でも登ることが出来ます。

頭胴長：50～75cm 尾長：約40cm
体重：3～5kg

アナグマ

食肉目イタチ科



ずんぐりとした丸っこい体形で四肢は太短く、爪は鋭く長いのが特徴です。穴を掘って生活しています。顔から上半身にかけては白っぽい毛で覆われ、尾は長い毛に覆われ太く、縞模様はありません。

頭胴長：40～50cm 尾長：6～12cm
体重：4～12kg

(イラスト：野生鳥獣被害防止マニュアル～特定外来生物編～農水省)

